



川崎桜子さん 1993年神奈川県生まれ。日本ラグビーフットボール協会女子レフリーアカデミー制度第2期生。自称「白米で元気が出るタイプ」。8月3日にリオ入りする予定。「テレビでぜひラグビーを観戦してください!」

ラグビーとの出会いは、小学5年生の時。2才上の兄がラグビー部に入り、試合を見に行くうちに魅かれていったそうです。「カッコいいなあ〜と♡ 高校では迷わずラグビー部のマネジャーになりましたが、女子もプレーができるという発想は全くありませんでした(笑)」

高2の終わり頃、マネジャーの中で1番体が大きいという理由で顧問の先生から勧められ、女子ラグビー選手育成のトライアウトに応募。しかし、当日集まったのは、他競技で国内トップクラスの人たちばかり。「何の経験もない私は落ちて当然だったのですが、とても悔しくて…。むしろやりたい気持ちに火がつかまりました」

その後、帝京大学に入学し、初の女子選手としてラグビーを始めました。しかし、試合中のケガがきっかけで、2年生で審判に転向することに。「選手の時はまだ必死にプレーをしていましたが、審判になつてからは全体を見るようになり、試合に対する思いが強まりました」

週末はレフリング向上のため各地の試合に出かけたり、時間を作って海外遠征に参加したり、精神的に活動しています。大切なのは、集中力、体力、頭を使うこと。試合では選手より速く走るこ

©JRFU 2016, photo by H.Nagaoka



川崎桜子さん

リオ五輪から正式競技となった7人制ラグビー。その五輪審判員に選出された元気いっぱい22才の川崎桜子さんに、五輪直前のインタビューをしてきました!

リオ五輪で鮮烈デビュー! 女子ラグビーの新星レフリー

異例の大抜擢! この春まで帝京大学ラグビー部員だった川崎さんは、現在、株式会社山小(やまこ)電機製作所に勤務しています。激しくぶつかり合うラグビーのイメージから、マッチョな女子を想像していたのですが、現れたのはスラリと背の高い健康美人。「今年の4月11日はリオ五輪の審判員発表の日でもあり、入社式の日でもあったので、二重の意味でドキドキだったんです!」と言う川崎さんは、話をしているだけで元気がもらえるような明るい女性です。

五輪の審判は、世界最高峰のワールドシリーズを4年間経験した人の中から選ばれるのが通例ですが、川崎さんが選手から審判に転向したのは3年前。海外での大会経験も2年しかありませんでした。

「技術はまだなのですが、うまくならない気持ちは強くもっています。他の審判と積極的に

見栄えも意識しながら観客にも選手にもわかりやすいよう、大きくシグナルを出すように心がけているのだとか。姿勢よく指先までピンと伸ばす美しい姿には、新体操やダンスなど、ラグビーを始める前に積んだ経験が生きているようです。

「審判転向当初は、批判やヤジを受けて落ち込むこともありましたが、今はメンタルトレーニングで鍛えているので大丈夫! たくさんの人にラグビーを見てもらいたいです」

リオでの活躍、期待しています!



7人制ラグビー 『セブンス』

15人制も7人制もルールはほぼ同じ。コートの方角も同じですが、15人制が80分の試合時間に対して7人制は14分。ボールの動きがよくわかり、スピーディーな展開を楽しめます。リオ五輪には男女各12チームが出場。女子チームの愛称は「サクラセブンス」。